

LGBTQの生きづらさ その正体と社会環境の整備

2015年以降、自治体のパートナーシップ制度導入やSOGI理解増進法の制定で、日本でもLGBTQの存在は認知されつつあります。しかし、まだまだLGBTQ当事者の抱える具体的な生きづらさが十分に認識されているとは言えません。実際には、福祉や医療、公共サービスなど何らかのサポートを受けようとしても、国家資格保持者の95%が「性的指向・性自認についての研修を受けていない」という現実のなかで、未だ「透明人間」扱いも多くみられます。本講座では「性の多様性基礎知識」に続き、実際あったNG対応例を挙げながら、どんな局面で不都合が起きるかをわかりやすく解説し、どんな対応が適切か一緒に考えます。



2024年1月12日(金)

開場 13:00 開演 13:30 (15:30 終了予定)

会場 社会福祉法人巣立ち会 サザン 2階

参加無料(事前申込制)

お申し込みフォームは
こちらのQRコードから →



サザン：三鷹市上連雀1-1-3 (三鷹駅北口徒歩3分)

原ミナ汰氏

- ・ NPO 法人共生社会をつくる性的マイノリティ支援
全国ネットワーク共同代表理事
- ・ 一般社団法人 SOGIE 相談・社会福祉全国協議会 代表理事
- ・ 一般社団法人 LGBT 法連合会顧問
- ・ 文京区男女平等推進会議委員
- ・ 厚労省補助金事業「よりそいホットライン#4 セクシュアル
マイノリティ専門回線」スーパーバイザー



プロフィール

1956年生。幼いころから男女の境界辺りで生息。女の子として生を受けたが、自分にその感覚はなく、どちらかといえば男の子だと感じていた。性別に合わない中学校生活に耐えられず不登校に。高校時代は女の子を好きになることを咎められ、悩みは深まる。暗いトンネルをどうにか抜けて「自分はこれでいい!」と思えるようになった20代後半から、社会活動を開始。現在、東京11区4市、埼玉県、川崎市他のLGBTQ相談・交流・啓発事業の運営に協力し、相談支援者養成講座を実施。2008年より、国・自治体職員、教員、援助職者向けに、全国のべ1000か所以上で「性の多様性」研修講師を務めている。

プロフィール

1984年福岡県生まれ。2002年よりジェンダー、セクシュアリティについて学ぶ。子ども時代は躰に厳しい家庭で育ち、自分の性別違和感や恋愛感情に見ないふりをし続けて苦しんだが、大人になって自身を受け入れ、生きている感覚を少しずつ取り戻す。都内男女平等参画センター勤務を経てLGBTQ・性的マイノリティ相談支援に携わりながら、2016年から多摩地域を中心にLGBTQ当事者と理解者の居場所づくりやピアサポート、啓発活動を続けている。

丸山まさよし氏

- ・ NPO 法人 共生社会をつくる性的マイノリティ支援
全国ネットワーク理事
- ・ 一般社団法人 SOGIE 相談・社会福祉全国協議会事務局次長
- ・ lag (ラグ) 代表
- ・ 江東区男女共同参画審議会参考人
- ・ 厚労省補助金事業「よりそいホットライン#4 セクシュアル
マイノリティ専門回線」アシスタントコーディネーター

